

妊婦に対する RS ウイルスワクチン(アブリスボ)接種をご希望の方へ

任意接種

RS ウイルスは、生後 2 歳までに、ほぼ 100%のお子さんが感染する小児の代表的な呼吸器感染症の病原体です。乳幼児における肺炎の約 50%、細気管支炎の 50~90%が RS ウイルス感染によるもので、特に生後 6 か月未満で感染すると重症化しやすいことが知られています。そこで免疫力を高め、重症化を防止するために、妊婦に対する RS ウイルスワクチン(販売名:アブリスボ筋注用)が医薬品として認可されました。

1. RS ウイルスワクチンを妊婦さんに接種すると、胎盤を通じて母体から胎児へ移行しますので、生後数か月間、お子さんの RS ウイルス感染症の重症化予防の効果が期待できます。
2. RS ウイルスワクチンは、現時点では生後 6 か月までの RS ウイルスを原因とする下気道疾患の予防効果が認められています。
3. RS ウイルスワクチン接種後 14 日以内の妊婦さんから出生したお子さんは、母体からの中和抗体の移行が十分ではない可能性があります。(中和抗体=ウイルスに結合し感染や重症化を防ぐ抗体)
4. お子さんが早産児などで RS ウイルス感染症の重症化リスクが高い際に、RS ウイルスワクチン接種の有無にかかわらず、抗体製剤の投与対象となることがあります。
5. RS ウイルスワクチンは妊娠 28~36 週までの妊婦さんに、1 回筋肉注射を行います。希望される妊婦さんは、妊娠 34 週の妊婦健診時までに主治医もしくは産婦人科外来スタッフにお申し出ください。
6. RS ウイルスワクチンは妊婦さんの自由意思に基づいて接種します。接種費用は自己負担で 33000(税込)円です。接種後、外来にて一定時間経過観察や安静が必要となります。
7. 接種予定日に発熱や体調不良などの場合には RS ウイルスワクチンを接種できないことがあります。
8. まれに、接種部位の異常や体調の変化、ショック、アナフィラキシー、けいれんなどの副反応をみとめることがあります。その際にはすぐに医師もしくは産婦人科スタッフにお申し出ください。
9. アブリスボの副反応による健康被害が生じた場合には医薬品副作用被害救済制度が受けられる場合があります。詳しくは、独立行政法人医薬品医療機器総合機構ホームページをご参照ください。
10. なにか、不明な点や質問などございましたら、主治医もしくは産婦人科外来にお気軽にお尋ねください。

